



秩父市コミュニティ・スクールだより

「地域とともにある学校」を目指して

No.14

埼玉県コミュニティ・スクールフォーラムが行われました。

年 1 度、県主催のコミュニティ・スクールフォーラムが開催されます。本年度は 2 月 8 日（金）、さいたま市で行われました。

この催しは、学校運営協議会に直接関わる人だけでなく、一般の人たちも対象にしています。コミュニティ・スクールの推進や充実を目指し、そのための知識やスキルを修得したり、情報交換を行うことを目的としています。

今回のフォーラムでは、「熟議」に関する演習が行われました。今号では、「熟議」に関する演習を中心に、フォーラムの内容をご報告いたします。

演習に先立って、事例発表と講演が行われました。

1. **事例発表** 深谷市コミュニティ・スクールの取組について

※ 深谷市では、平成 28 年度、すべての小・中学校にコミュニティ・スクールを導入しました。

2. **講演**

講師：四柳千夏子 氏 文部科学省コミュニティ・スクール推進員（CS マイスター）

テーマ：「地域とともにある学校」づくり

※ 四柳氏は、昨年度、秩父市の主催するコミュニティ・スクール研修会で講師としてご講演いただきました。

3. **「熟議」の演習**

(1) テーマ：「子どもたちが身に付けるべき『生きる力』とはどんな力か」

(2) 進行：四柳千夏子 氏（講演と同一）

(3) 目的：熟議の仕方を体験して、学校や地域に持ち帰る。

(4) グループ作り：前後のテーブルで 5～6 名のグループを作る。

この「たより」は秩父市の皆様に、「コミュニティ・スクール」を知ってもらうためのものです。

(5) 準備：模造紙、付箋（2色）、マジック（多色ペン）

(6) 演習の内容

(ア) 目標の確認 話し合いの成果として、すぐに取り組める具体的な取組を必ず設定する。

(イ) 係決め ファシリテーター、マジック係、発表係

ファシリテーターの役割

（ここでは、四柳氏の普段の取組を基にしている。）

指示と時間の管理（この2つだけ）。意見はまとめない。



(ウ) 話し合いのルール

- 一人でしゃべりすぎない。
- 他人の話をしっかり聞く。
- 他人の意見を否定しない。

(エ) 目指すべきゴールを決める。

- 本日のゴール 「やってみようと思うアイデアを出す。」

(オ) 自己紹介

（どこから来て、普段子どもたちのためにどんなことをしているか。1人1分。）

- 順番は、進行役の指示で、会場の中央付近に立っていた進行役に最も近い人から時計回りで行う。）

(カ) 演習中での注意

- 他人の意見を勝手に一人で判断しない。みんなの意見を聞いてから。
- 話し合いになれていない人も必ずいる。焦らずに続けていく。（必ず自分の意見を言うようになる。）
- 話し合いが話し合いで終わらないよう、必ずアクションを起こす。

演習を終えて

進行役の四柳氏の指示が明確で、よい体験ができました。最後に、今後の「熟議」に活かすために、印象に残ったことをまとめました。

- ◎ 話し合いのゴールを設定し、実際に取り組める行動（アクション）を言葉にする。そして、それを実行する。
- ◎ 共感をもって他人の意見を聞き、自制をもって自分の意見を述べる。
- ◎ 最初はなかなか意見が出ないこともあるが、継続していく。
- ◎ 常に、「地域の子どもたちを育てる」という視点を忘れない。